

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 07

2012年12月15日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄

主ご自身に すること

クリスマスの出来事は、宿屋に部屋がないために、若い妊婦が夫の手助けだけで環境の悪い馬小屋で初子を出産するという、想像を絶する出来事でした。

「『ああ、わたしがその場に居合わせたらなあ！ 喜んでお手伝いしたるうに！』と私たちは考えます。それなら、なぜ今すぐそうしないのですか？ キリストはあなたの隣人の内にいましたもうのです。あなたはそれに仕えなくてはなりません。苦しみの中にある隣人にすることは、主ご自身にすることなのです」（マルチン・ルター）。

「苦しみの中にある隣人」を東日本大震災の被災地に見ます。先日、再び宮城県の被災地を訪ねました。震災後1年9ヶ月がたっても、各所に地震と津波の傷あとが見られ、人の心にも傷が残っています。石巻市の東にある女川町では、入江になっている町の中心部が、高さ17メートルにも達した津波に吞まれ、死者900名など甚大な被害を受けました。津波によって横倒しになった4階建てのビルは、今もそのままです（写真）。

東日本大震災の支援に関する我が教団のテーマは、「**地域の人々の救いに仕える教会の再建を目指して**」です。教会（教団）ならではの地域への奉仕を模索し、実行していきます。仙台と石巻に教団が設置した被災者支援の活動拠点「エマオ」は、常駐するスタッフの皆さんと、全国からボランティアに集まってくる方々によって、大切な活動を続けています。これによって今後も「**地域の人々**」の支援を続けたいと思いますが、その「**救いに仕える**」ことを現地で実行する「**教会の再建**」も重要な課題です。「**教会**」は現地の教会だけでなく、それを支えて共に歩む教団全体も含みます。これこそまさに教会（教団）ならではの使命です。

日本基督教団の「東日本大震災救援募金」は、2015年3月末までの4年間に、国内献金10億円、海外からの献金12億円を目標として掲げました。国内献金は4億5千万円に達しようとしています、海外からの献金は減ってきました。海外の諸教会は日本の大震災だけでなく、その後世界各地に起こった自然災害への支援や、パレスチナ問題などの紛争に対する対応にも使命を感じ、祈りと捧げ物を送っておられるからです。日本の教会にも協力が要請されるほどです。

東日本大震災の支援はまだまだ続きそうです。「**地域の人々**」のための支援活動は、その必要性は果てしないと感じられるほどです。仙台と石巻のエマオには口コミで支援を求めてくる方々があり、それに応えるにはボランティア・ワーカーが足りません。さらに、地域に仕える「**教会の再建**」は、これこそ教会が支えるしかないことですから、教団全体の長期的な協力が強く求められます。

「苦しみの中にある隣人にすることは、主ご自身にすること」との思いをもって、これからも教団の救援活動にご協力ください。まずはクリスマスの献金をお捧げいただければ幸いです。

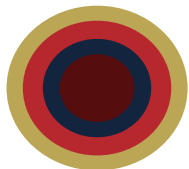
被災地の皆さんと、それを見守るすべての人びとに良きクリスマスを。



日本基督教団
救援対策本部委員
大村 栄
(阿佐ヶ谷教会牧師)

地域の人々の救いに仕える

児童養護施設 堀川愛生園



伊藤信彦（堀川愛生園施設長）

昨年の3月11日の東日本大震災、それに続く原子力災害により、児童養護施設堀川愛生園（福島県東白川郡棚倉町）も生活に様々な支障がもたらされました。

第一に、地震による建物の損害です。幸いに、死傷者もなく、こどもたちの住む家の倒壊は免れましたが、建物の内・外部は壁に亀裂が入り、剥落し、地盤が沈下して家と地面の間に大きな隙間ができました。昭和44年に建てられた4軒の家と、それ以前に建てられ改修してこどもの家になっている地域のグループホームは「奇跡的に」残ったと言っても過言ではありませんでした。こどもたち、職員を神様がお守りくださったと感謝しています。壁の亀裂や剥落、大きな隙間などは応急的に修復はしましたが、これを期に耐震性が不安なこどもの家の改築が急務となりました。

第二に、3月12日以来、現在も問題は引き続いている原子力災害による放射能汚染の問題です。愛生園は毎時0.18～0.2マイクロシーベルトの空間放射線量が計測されています。この数値が直接健康被害に結びつくのかという問題は様々な議論されていますが、放射能汚染は生活に大きな影響を及ぼしています。昨年の春以降、こどもたちは屋外での活動を制限され、運動会やプール学習などの規模を縮小されたり、或いはできなくなるなどとなりました。また、登下校時には帽子やマスクを着用することが指導され、夏になって暑くなっても長袖の運動着が奨励されました。夏ごろからは、学校から支給された積算放射線測定器（通称ガラスバッジ）を首から下げることとなりました。これは定期的に回収され、こども個々人がどれだけ放射線を浴びたかが数量として報告されました。また、最近ではホールボディカウンターという機械を使って体内被曝を計測しました。どの検査をしても、「安全」と言われる数値範囲の結果ですが、本当に「安全」かと問えば、10年先以降に人体に影響が現れると言われており、誰にもわから



ないことです。結果、放射能汚染フクシマはチェルノブイリ以上に世界中から注目されることとなりました。福島で生活するわたしたちは、放射能汚染の影響下で、どの程度被曝すればどのような人的被害がもたらされるのかという、もはや実験材料と化しています。このような現実の中で、昨年以來、風評被害も深刻な問題でした。こどもたちですら、小さな心を痛めるようなこともありました。震災の日から間もなく2年が経とうとしていますが、人びとから忘れられていく風化の現実にも直面させられています。福島は今も苦しみ、悩み、助けを求めている人びとが溢れているのです。危険地域に指定された地域では2011年3月11日午後2時46分のまま時間が止まり、瓦礫の片付けもされないまま野ざらしになっています。職を失った一部の人びとは、除染作業員となり高濃度の放射線の中で働いています。それ以上に災害補償により、当分の間、無理に働かなくても生活に困らない家庭が増えています。生活環境は悪くなり、就労しない親がいる。そんな家庭内でこどもやお年寄りといった社会的弱者が生活しづらくなっていきます。震災で親を亡くしたこどもたちは親族によって引き取られていったものの、新しい家庭で不適応を起こしてしまう問題が起こってきています。

こんな福島の現実の中で、わたしたちは種々の複雑な家庭を背負ったこどもたちと生活しています。震災後に日本基督教団の皆様方から、暖かいお励ましや、具体的なお支援をいただきました。感謝しております。特に、震災後に急務となった園舎の全面改築のためには1000万円という多額のお支援を頂戴しました。昨年末には園のこどもたち、職員合わせて60名が東京ディズニーランドに1泊2日でご招待いただくという、夢のような大きなクリスマスプレゼントをいただきました。このことはこどもたちにとって生涯忘れられない思い出となりました。

また、この11月末には新しいこどもの家が3軒完成しました。すでに新しい家での生活が始まっています。来年の春に向かって、全ての事業が完成するように工事は引き続いて行われており、新しい生活にこどもたちは目を輝かせております。わたしたちは、多くの方々から支えられ、温かく見守られていることをこどもたちともども感謝を持って受け止めています。一番近いところにいる親というおとなに裏切られ、見捨てられ、おとなや世間に対して不信を抱くこどもたちに、神様が多くの人びとを通して決して独りではないと教えてくださっていることを実感させられています。



放射能汚染問題と向き合う



小西 望

(仙台北教会牧師／東北教区教会救援復興委員長)

1993年の東北教区総会は、「福島県双葉町の新増設に反対する教区声明」を可決し、福島県に申し入れをするなどこれを公にしました。さらにこのことを諸教会で展開しようとする中、教会幼稚園で退園者が相次ぐなどの困難が起こり、十分に深めることが出来ませんでした。しかし昨年3月11日に起こった福島第一原発での事故は、この課題が通り過ぎて済まされないものであることを明らかにしました。

教区内では、浪江伝道所が現在も「帰還困難地域」にあり、立ち入ることはできません。また小高伝道所ならびに幼稚園が日中しか立ち入れない「避難指示解除準備地域」の中にあり、通常活動はできない状態にあります。両伝道所の信徒は全員他地域に避難を余儀なくされており、中には他地域に引越をして転会された方もあります。教師は代務状態です。また2つの伝道所以外の近隣教会でも、線量が高いため全員・一部が他地域に避難生活をしている家庭があります。どうぞ覚えてお祈りください。

また近隣の教会等でもなかなか下がらない線量に苦慮しています。ある教会からは教区に除染作業援助のお願いが出されました。ぜひ応えたいとの思いはあっても、責任また方法・編成をめぐって議論となり、ついに教区としては送ることができず、無力を感じました。代わって後に有志ボランティアが出かけた時も、50歳以上に限って募集がなされました。現在、東京教区千葉支区社会部が(社福)牧人会の知的しょうがい児・者施設に継続して除染ボランティアの奉仕をしてくださっています。

100km近く、またそれ以上離れた場所でも、安心はできません。たとえば雨水の集まる所はホットスポットとなり、特に子どもには大きな危険となります。鉄製遊具には塗装内に放射能が入り込み、グラインダーで削り取らなければ線量は下がりにません。遊具や砂場そのものを取り替えた幼児施設も複数あります。外遊びは制限され、食べ物にも細かく気を配らなければなりません。

■人がいない町に建つ小高伝道所・幼稚園



■仙台の食品放射能計測所「いのり」

いつ終わるとも知れない心労の中を歩んでいる子どもたちと親を少しでも支えたいと、いくつかの働きが教会内部からも形づくられています。大阪教区はチェルノブイリ事故以来放射能による健康被害問題に取り組んでおられる山崎知行医師を派遣してくださり、教区内で約20回健康相談会が開かれてきました。超教派団体である東北ヘルプは仙台といわきに食品放射能計測所を設置して無料で計測サービスを行うと共に、傾聴活動を行っています。ちなみに仙台での開所以来約1年の計測データのうち、日本の基準100Bq/kgに触れるものは3.9%でしたが、これを欧州放射能リスク委員会(ECRR)の基準に照らすと大人の基準で12.8%、また子どもの基準で19.5%が抵触するとのデータが出ています。私たちはこれをどう受け止めるべきでしょうか。若松栄町教会内に置かれた会津放射能情報センターも放射能計測活動を行うと共に、思いを分かちあう「しゃべり場」を設け、広く情報も発信しています。教団は東京YMCAと協力して、また北海・奥羽・東北教区の共同で、短期保養プログラムを展開し、多くの親子がほっとできるひとときを与えられてきました。

教区は教会救援復興委員会を立ち上げ、「緊急時対応マニュアル」を全教会・関係施設に配布、さらに「緊急事態発生連絡メール配信システム」を整備してきました。原発事故は残念ながらもまだ収束しておらず、特に大量の核燃料が保存されている4号機は難しい状況にあって、深刻な放射能汚染の危険はなお去っていないからです。また放射能汚染問題に日常的に向き合って働く「放射能対策室」を設置すべく、教団と協議調整を進めています。

今年の東北教区総会は、「原子力発電所の廃止を求める声明」を明らかにしました。その中には“創造の秩序の中で、神からゆだねられた恵みがより公平に分配されることを願い……そのためにも自分の傲慢を知り、神を知る真に人間的な生き方を求めなければならない”とあります。私たちはもはやこの課題を通り過ぎることは許されません。事故を起こした福島第一原発は東京の電力を生産していました。また、全国には54基の原発があります。主のご支配を求めるがゆえに、共にこの課題に向き合っていきたいと願っています。

東日本大震災救援募金会計 総額 671,995,188 円

国内 438,328,319 円

海外 233,666,869 円

2012 年 11 月 30 日現在

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表 (単位: 円)
【2011 年 3 月 15 日～2012 年 11 月 30 日】

教区	件数合計	金額合計
北海	76	3,195,862
奥羽	80	2,973,824
東北	42	1,950,792
関東	485	33,064,332
東京	953	129,333,907
東京教区	10	2,282,956
東京・東	158	17,450,998
東京・西南	266	57,627,213
東京・南	95	17,030,203
東京・北	173	16,672,649
東京・千葉	251	18,269,888
西東京	420	42,908,277
神奈川	350	35,732,186
東海	290	26,116,073
中部	379	48,522,015
京都	60	7,162,322
大阪	306	25,406,237
兵庫	68	8,503,254
東中国	68	3,945,808
西中国	126	6,121,021
四国	244	13,233,820
九州	231	13,913,452
沖縄	64	1,964,542
個人・他	725	34,280,595
総計	4,967	438,328,319

東日本大震災救援対策委員会会計、
東日本大震災救援対策本部会計中間収支計算書

(単位: 円)

	合計	12 年度合計	総合計
	2011 年 3 月 12 日～3 月 31 日	2012 年 4 月 1 日～11 月 30 日	2011 年 3 月 12 日～12 年 11 月 30 日
【収入の部】			
繰入金	50,000,000	0	50,000,000
海外募金収入	210,440,705	23,226,164	233,666,869
国内募金収入	336,817,359	101,510,960	438,328,319
雑収入等	0	14,789	14,789
長期借入金収入*1	0	110,000,000	110,000,000
当年度収入合計(A)	597,258,064	234,751,913	832,009,977
前期繰越収支差額		380,866,480	
収入合計(B)		615,618,393	
【支出の部】			
救援金*2	103,607,240	50,014,218	153,621,458
会堂牧師館再建補助金*3	0	101,385,300	101,385,300
見舞金	1,940,000	3,000	1,943,000
委員会費	3,093,199	1,777,582	4,870,781
渉外費	917,653	128,220	1,045,873
人件費	16,120,193	13,260,900	29,381,093
事務費	20,387,645	11,661,420	32,049,065
活動費	3,123,444	2,433,793	5,557,237
車両費	3,960,228	2,246,739	6,206,967
建物費	13,241,982	0	13,241,982
長期貸出金支出*4	0	77,000,000	77,000,000
救援対策基金戻入金	50,000,000	0	50,000,000
当年度支出合計(C)	216,391,584	259,911,172	476,302,756
当年度収支差額(A)-(C)	380,866,480	▲ 25,159,259	355,707,221
次期繰越収支差額(B)-(C)		355,707,221	

* 1 長期借入金収入 内部借入金 6000 万円と教団経常会計からの借入金 5000 万円の計 1 億 1000 万円です。

* 2 救援金 (4～11 月支払内訳)

	8 月末まで	28,976,183
2012.9.5	救援金戻し・健康診断受診料 (人間ドック) 差額返金 1 名	-6,000
2012.9.21	2011 年 5 月～2012 年 3 月 ボランティア宿泊支援金 東北_仙台青葉荘教会 357 名、他 8 件	2,380,000
2012.9.24	三春幼稚園エアコン設置費用支援金 返金分 東北_三春教会より* 公的機関より補助金が支払われた為	-492,095
2012.9.24/10.1/10.17/11.29	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助	269,000
2012.9.25	2011 年 5 月～2012 年 3 月 ボランティア宿泊支援金 10 名 仙台川平教会 送金	100,000
2012.9.30	アジア学院 再建のための救援金 (既に会堂・牧師館再建会計より立替払い済みで、同立替金の清算)	20,000,000
2012.10.2	エアコン設置補助金 返金 学校法人栄光学園* 後日、公的補助があった為	-4,556,925
2012.10.12	第 4 回こひつじキャンプ 2012 年 7/29 (前泊 7/28)～8/4 YMCA 阿南国海洋センター (徳島県阿南市) キャンプ実施費用・管理費 (キャンプ実施費用 1,205,018 円、下見費用 0 円、管理費等 430,000 円) 支払先: 東京 YMCA	1,635,018
2012.11.22	エアコン設置費用支援金 返金 清風幼稚園より* 後日、公的機関よりの補助があったため返金。	-798,000
2012.11.22	被災車両新規購入支援金 2012 年 10 月 15 日・本部会議決定 奥羽教区・釜石保育園職員 7 名分 (購入金額合計 8363788 円の 30%)* 西南ドイツ宣教師会 EMS よりの指定献金 (奥羽教区へ送金)	2,509,137
2012.11.26	健康診断 (人間ドック) 受診費補助差額返金	-2,100
合計		50,014,218

* 3 会堂牧師館再建支援金 (4～11 月支払内訳)

	8 月末まで	31,435,300
2012.10.12	教会堂・牧師館再建復興支援 (2012.9.28 本部会議決定) 奥羽_千厩教会分	25,000,000
2012.10.12	教会堂・牧師館再建復興支援 (2012.9.28 本部会議決定) 東京_安食教会分	19,950,000
2012.10.31	会堂・牧師館 再建支援金 (2012 年 10 月 15 日 本部会議決定) 東北_鹿島栄光教会分	21,000,000
2012.11.9	会堂・牧師館再建支援金 (2012.10.15 本部会議決定) 東北_名取教会	400,000
合計		101,385,300

* 4 長期貸付金: 会堂・牧師館再建貸付金 (4～11 月支払内訳)

2012.9.30	内部貸付 (会堂・牧師館再建支援会計から救援活動会計へ)	60,000,000
2012.10.22	仙台ホサナ教会	7,000,000
2012.11.22	会堂・牧師館建築資金 貸付金 東北_川俣教会	10,000,000
合計		77,000,000